

図書館 だより

LIBRARY
INFORMATION

おすすめ図書！

①茨城の怖い話

寺井 広樹・一銀 海生 著

②もののけ屋

廣嶋 玲子 作・アンマサコ 絵

立秋を過ぎましたが、まだ暑い日が続いています。暑さを忘れるため、怖い話などいかがでしょうか？

怖い話といえば、日本では夏の暑いときに話されることが多いです。一説によると、お盆の季節であることと、江戸時代の歌舞伎で、「東海道四谷怪談」などの幽霊が出る怪談芝居を上演し、夏場に怖い話をする習慣が生まれたそうです。

図書館には、怪談やホラー映画の原作などの怖い話の本があります。その一部を紹介します。

【あらすじ】

①茨城の怖い話

茨城県内の怖い話を、市町村ごとにまとめた本です。

有名な怪談スポットや、「こんな場所にこんな話があったのか」など、意外な話が紹介されています。内容はさまざまで、昔話のようなものや、兵隊の幽霊、都市伝説などバリエーションに富んでいます。大変に残念ですが、かすみがうら市の話は収録されていません。



②もののけ屋

子どもに大人気の「ふしぎ駄菓子屋銭天堂」の作者が書いた別のシリーズです。

嫌いなものが食べられない、あの子みたいになってみたい、自分の失敗を隠したいなどの悩み事や願い事を、どこからともなく現れる、丸がり頭で派手な着物を着て、耳に金のイヤリングを付け、指にマニキュアを塗った姿の「もののけ屋」が、解決のための「もののけ」を貸してくれます。

皆さんは「もののけ」に会ってみたいですか？本を読み終えたころには、気持ちが変わっているかも。



9月図書館カレンダー

2021年 9月 September						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

【お知らせ】

◎お話しは、新型コロナウイルス感染症の拡大の状況により中止となる場合があります。

■休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)、図書整理日

○お話し：9月11日 午前10時半から

図書館ホームページでは、利用案内や図書検索など図書館の情報を掲載しています▶

☎ 図書館 ☎ 029-897-0647



歴史 にふれる



霞ヶ浦の帆引き船

霞ヶ浦の風物詩である帆引き網漁(通称 帆引き船)は、明治13年(1880年)に坂(二ノ宮)に生まれた折本良平によって考案されました。

そして、この漁法は、折本氏により、次第に多くの漁師たちに操業技術が広められ、昭和42年(1967年)までの約90年間、霞ヶ浦のワカサギ漁の主役として操業され、霞ヶ浦の伝統漁法となりました。

帆引き船は、風の原理を応用し船を横に流して漁を行う、珍しい漁法です。漁師は、漁に出る際に天候や風から霞ヶ浦のさまざまな状態を読み取っていました。自然と共存する漁法で霞ヶ浦の恩恵を受けてきたのです。しかし、昭和42年にトロール漁が解禁になることで、帆引き網漁は終焉を迎えました。

後年、この伝統漁法は、多くの方々から復活を望

む声上がり、旧出島村では昭和46年(1971年)に「観光帆引き船」として操業が再開されました。

その後、他市町村でも観光帆引き船が操業されるようになり、帆引き船を見学や写真撮影する人々も増加していきました。

平成13年から「霞ヶ浦の帆引き船・帆引き網漁法保存会」により開催されている霞ヶ浦帆引き船フォトコンテストも、今年で20回を迎えます。テーマは『帆引き船の勇壮な姿と霞ヶ浦の風景』です。帆引き船の写真はもちろんですが、霞ヶ浦の風景写真も応募の対象となります。一般の皆さんはもとより、小中学生の皆さんも奮ってご応募ください。

皆さんの素敵な作品を心よりお待ちしております。

第19回霞ヶ浦帆引き船
フォトコンテスト入賞作品



☎ 歴史博物館 ☎ 029-896-0017



あじさい
土曜名画座

【鑑賞の注意点】
マスクは必ず着用
してください。

▶日時 9月4日 午後2時

※午後1時半受付・開場

▶定員 先着20人

▶場所 あじさい館[視聴覚室]

▶料金 100円

☎ 霞ヶ浦中地区公民館

☎ 029-897-0564

『つむぐもの』

出演 石倉三郎 キム・コッピ

【ストーリー】

[上映時間100分]

頑固な和紙職人・剛生のもとにワーキングホリデーで韓国から来日した自堕落なヨナ。和紙作りを手伝うはずが、剛生が病魔に倒れ、なんと介護をすることに！衝突を繰り返す2人だが、次第に奇妙な友情が芽生えていく。

あじさい館ホール展示作品紹介

【9月は「フォト霞ヶ浦」の作品展示】

あじさい館では、市内の文化団体などが作成した絵画、写真、陶芸、工芸品の芸術作品などを月替わりで展示しています。ぜひ、ご覧ください。

▶作品展示期間 9月1日(日)～9月26日(日)

☎ 生涯学習課 ☎ 029-897-0564

投稿作品

千代田俳句同好会

ゆきゆきと百の花つづ凌霄花

万緑や次々浮かぶ子等の顔

突然の激しき雷雨後は闇

万緑や木の香の中を園遊車

存分に深呼吸して梅雨晴間

紫陽花俳句会

夕立に降り込めらし老二人

大夕立夕餉の支度急ぎ足

涼風や古代のロマン古墳より

大夕立三日そろそろ遠雷か

出島短歌会

病みかちの母の手のひら冷たくてかすかに聞こゆ湖の水おと

のちのちに東京五輪は評されん今日は選手にエールを送る

制帽に詰め襟着たる叔父二人祖父母と並ぶ実家の長押

この暑さ今日も一日時過す戻らぬ今を気付かぬままに

投稿作品

あまたなる人の努力に依りてこそワクチン接種いま叶いけり

現世では二人に一人を癌が襲うこの身を見つめ感謝で生きる

墓参り姉妹四人の逢瀬ささえ奪ってかなし コロナよ遠く

点々と灯りが揺れる集落に青葉の風は強く吹きゆく

一ひらの命の火散り逝くも生きた証は確かに其処に

子の下駄の小さくなりぬ初浴衣

のんびりと昼寝で防ぐ熱中症

でで虫の葉裏の旅や終はらまし

大夕立庇のかげに時をまち

萩原清志

久保庭悦子

岡田恭子

仲谷香代子

名倉親子

投稿作品(俳句・短歌・川柳)を募集します。9月3日(日)までに秘書広報課(〒315-8512 上土田461)へお願いします。
※応募多数の場合は掲載されない場合がありますのでご了承ください。また、音声読み上げに対応するため、漢字にはふりがなの記載をお願いします。(内容を確認する場合がありますので、電話番号もご記載ください。)